

# 社員の皆さんに、告白します。

ごくごく個人的な話で恐縮です。  
ちょっとお伝えしたいことがあり、  
当グループが75周年を迎えた本日、  
この新聞紙面をお借りすることになりました。

「え、誰?」と思われるでしょうから、  
少々自己紹介をさせていただきます。  
私、桑原賢史朗と申します。  
桑原電工、桑原冷熱、桑原電装の3社からなる、  
桑原グループで3代目代表を務めております。  
1978年5月4日生まれの43歳。  
ええ、自覚しています。  
年の割にはかなり貫禄があることを。  
小さな写真からも伝わっていることでしょう。  
先日、息子の卒園式を翌日に控えた時のことです。  
子どもが無事成長し卒業する、ということに  
感極まって早くも泣きそうだった私ですが、  
彼から  
「パパ、来るなら帽子かぶってきてね」  
と言われ、別の意味で泣きましたからね…。

そんな話はさておき、  
私は高校まで北見で過ごしたのち、進学で上京。  
そのまま東京で10年近く働いておりました。  
今とはぜんぜん畑違いの会社です。  
しかし2009年1月、北見へ舞い戻ってきます。  
特に親や周囲から強制されたわけでもないのですが、  
4人兄弟の末っ子である私が会社を継がなければ、  
とぼんやり考えていたからです。  
(3人の兄・姉は別の道に進んでいましたし)  
さて、桑原電工にて、  
一社員として働き始めたわけですが、  
「3代目」ってことで  
どうしても社内では色眼鏡で見られる日々。  
正直コンチクショーと思うこともありました。  
当時は社員の人たちが嫌いでしたね…。  
でも。  
でも、今は従業員のことが好きなんです。  
大好きなんです。

めんこくて、仕方ないんです。  
(気持ち悪いと思われそうですが…)  
誰がやっているのかわからないけど、大事な仕事。  
世の中には多いと思います。  
私たちの仕事はまさにそれ。  
皆さんの当たり前前の暮らしを支えている。  
そんな自負があります。  
手前味噌ですが、うちの社員は  
みんなバカ真面目でバカ正直。  
毎日毎日、お客さまとまっすぐ向きあって、  
愚直に精一杯頑張ってくれている。  
本当にありがたい。  
ただ、裏方の仕事だから、  
どうしても夜遅くに働かないと  
いけないこともあるわけで。  
そんな姿を目にすると、  
社員やそのご家族たちに  
申し訳ない気持ちでいっぱいになります。  
そのためにも私たち経営陣ができることは、  
「この会社で働いて良かったなあ」  
と思ってもらう舞台を整えること。  
みんなのために会社を続けたいといけない。  
残さないといけない。  
責任を強く強く感じています。  
こんな内々の話は、社内ですら  
って声が聴こえてきそうです。  
おっしゃるとおりです。  
社員に向けての、  
ある意味プライベートな話を  
しているわけですから。  
ただ、本人たちに直接言うのは、  
やっぱり小っ恥ずかしい。  
こう見えてシャイボーイなので、  
この場を借りて、  
社員たちに告白させてもらいました。  
おまえたち、めんこいぞ、と。

そうだ、肝心なことをひとつ。  
この75周年のタイミングでロゴマークを刷新し、  
企業スローガンを作りました。  
「信じられる人になる。」  
これがスローガンです。  
周囲の人から信じてもらえること。  
また反対に、他者を信じられること。  
私たちにとって、  
いちばん大切なことを凝縮した言葉です。  
これから先、この言葉を掲げていく私たちが  
本当にその通りなのか、  
ぜひ確かめてやってもらえませんか。  
貴重な時間を割いてここまでお読みいただき、  
誠にありがとうございます。  
これからも桑原グループ、  
いや、正確には私以外の全従業員を  
どうぞ可愛がってやってください。  
私なんかからの愛情よりも、  
お客さまから好かれて、愛されて、  
仕事の喜びをみんなには感じてほしい。  
そう心から願っています。  
そして、もしうちの人間が失敗をしてかしたら  
私が頭を丸めて飛んでいきますので、  
勘弁してやってください。  
あ、ここ笑うところですよ。

桑原グループ  
代表 桑原賢史朗

